

広報 UNOYUKU

第 6 号

発行所 黒埼村役場
発行人 清水善夫
印刷所 小野塚印刷機



今年の作柄を検見する

〈村の動き〉

8月末現在

人 口	16,984人
男	8,309人
女	8,675人
世帯数	3,691
8月1日から8月31日まで	
死 亡	4 人
出 生	20 人
婚 姻	16 組

作柄は予想を下廻る

グリーンとのびた「コシホマレ」

今年の長期予報は稲作にとつては赤信号とも云うべき予報が春にだされ、特に八月から九月上旬頃には早冷の気配で稲作農家をとまどわせた、しかし八月下旬から九月上旬にかけてのお天気は予報を完全にくつ返えし九月上旬に今年の最高気温を記録するという異状な結果が現われ、収穫機械を能率的に利用するため、各農家とも落水を早めに行かない圃場の乾きが極度に高まり八月下旬頃には早生種の根が枯死し倒伏する程のものが出始めるなど、稲作の後期に稔実低下と併せて首枝梗イモチ穂枯などが以外に影響し八月下旬の作柄予想を大きく下廻り早生の収量、品質とも振わない実態である。

刈取作業をしていたある、農家は稲穂を手にとって「今年は蒲原さまのお託宣七分の作難無しが適中し天気に完全にうつつちやられた」と苦笑し見かけ倒しの豊作と米の生産調整加えて二年連続米価据置、米の出荷数量の制限、生産調整と減収のダブルパンチにまゆをひそめて話した。しかし全部の農家がそうな

り被害を受けている圃場もある。以下中晩生種のうちコシヒカリの作付が漸増傾向を占めし一二〇ヘクタールでようやく百ヘクタールを越え味の王様といわれるだけ需用に応じつつあるが、耐倒伏性には弱で現在でもかなりの倒伏面積がでている。これからの気象条件が問題となろう。また部落別では板井が割り合い

つているとは云えないようだ。部落的あるいは個人的には見かけどおりの豊作を手に行っているものがある。高度な稲作技術と圃場条件の整備用排水の適正管理を行えば風水害なしの気象条件の年には理論的にも合うはずである。

本村の作柄は全般的には一応昨年を上廻ることは間違いないにしても、四十二年四十三年にはお及ばない。品種別では全体の作付面積の約三十%を占める越路早生が首枝梗イモチ穂枯などの被害で収量は振わない。コシホマレは今年産より県奨励品種の指定で急速に作付面積が増え日本海に次いで第三位にのし上がり約二百ヘクタール四十分台で今後も更に作付増加が見込まれ農家からもかなりの好評を得ている品種である。収量もおそらく越路早生を上廻る予想である。日本海は四十六年産より県奨励品種指定から除外されることが決定されているだけに二二四ヘクタールでなお全体の作付率では第二位であるが越路早生同様首枝梗イモチでかな

良好の作柄で、木場、黒鳥、北場、小平方、金巻などの部落がこれについているようで品種別のような大きな差はないような状態である。以上が九月上旬現在の作柄の概況で今後の天候及び病害虫の発生状況で中晩生種については若干の動きもあるうが大きな期待はできない。平均作を少々上廻る程度が本村の稲作状況であるようだ。 農政課

加茂市の水害により

札状がきております

(原文のまま)

私は、加茂市の者であります去年の大水害の時に「黒埼村にて一主婦」として私に見舞金を送ってくれた方がありますが、大変感謝しておりましたが、居所もわからず、とうとう一年を過ぎてしまいました。お礼を言いたいのでありますがわかりませんので、すみませんけれども、村の機関紙でも利用して、お札を言っておきたいのであります。ぜんぜん知らない私に金を送ってくださったのですから、私は、ありがたくてたまらなくなりました。その人の気持ちはいつまでもわすれません。私もそう言う気持ちを見習うと思っております。すみませんけれども、お願いします。 堀フサ 村役場様

運転者講習会

とき 10月5日午後7時より
場所 中央公民館
講師 新潟西署
青藤交通 課長